

産業投資に対する財政投融资分科会での意見

財政投融资分科会（平成29年12月20日）での主な意見

- 産業投資の歳出は政策的必要性で決まる一方、歳入を決定する要因は全く異なっており、バランスする保証はないが、政策的必要性を引き続き充足するためにはどのような工夫が必要か。
- 産投機関における人材等のパフォーマンスを検証するためにも、財務省には、今後の機関に対するモニタリングの在り方を横串で考えてもらいたい。
- 政府の出資が事後的に補助金や無利子貸付けにならないよう、ハードルレートなり配当なりを出資の最初の段階で事前にコミットメントさせるという仕組みを検討すべきではないか。
- エクイティの場合、元本を返せば良いのではなく、アップサイドを取ってまわしていく必要。その観点から、最初の投資時点ではある意味過剰に慎重なのに、儲けに関してそれが費消される状況を放置しているというのは、投資としてのガバナンスが効いていない。
- やはりある程度のリスクはとらなければいけない。同時に、そのリスクの果実としてのリターンはしっかり確保して、人件費等でそれを食いつぶすのではなくて、ほかにより適当な投資機会があればそちらにお金を持っていくという対応が必要。
- インセンティブやプレッシャーや政策目的の実現等、トータルとして物事を考える必要があるため、ファンドオブファンズたる財務省に考えてもらいたい。